

知的障害生徒の「願い」を拓げ育てる授業づくり（1）

－興味・関心からはじめる国際理解学習－

○ 工藤傑史 高津梓 深津達也 佐藤義竹 安達敬子 宇佐美太郎
（筑波大学附属大塚特別支援学校）

KEY WORDS: 知的障害特別支援学校 生徒の「願い」 協同学習

【目的】

障害者を取り巻く近年の動向において、障害者自らが意思を表明し主体的に社会生活を送ることの重要性が言われている。しかし、知的障害児者はその特性上、自らが考えて意思表明を行うことが困難なことがある。また、願いの聴き取りや行動観察のみではそのレパートリーの広がりや内容の深まりにつながることは難しい。人と人との関係の中で自己選択による小さな願いの実現を支援する指導の積み重ねや、自らの興味関心を基盤に仲間と学びあう機会設定は、知的障害のある児童生徒が「願い」や「意思」を表明するための知識や手段の学習の基礎となると考えられる。

本実践では、知的障害特別支援学校中学部において、「国際理解学習」を題材にした生活単元学習を行った。生徒らの興味関心に基づいた学習内容の選定を行い、自己選択・決定や仲間との協同学習の機会を設定を行うことで、生徒自身の興味関心の拡大や学びに対する「願い」の表出の変化について検討することを目的とした。

【方法】

1. **対象**：知的障害特別支援学校中学部に所属する、軽度から重度の知的障害、自閉症スペクトラム障害、染色体異常等のある生徒 17 名を対象とした。

2. **実施期間**：X 年 5 月から X+1 年 2 月までの 8.9 月を除く約 8 か月。生活単元の授業において週に 1～2 単位時間程度行った。

3. **授業設定**：本単元は、年間を通して実施した「国際理解学習」を題材とした単元である。学習集団や生徒個人の目標に基づき題材を設定し、生徒個々の興味・関心に基づいて活動内容を選定した。

生徒への事前アンケートを行い、興味・関心の高さから「食べ物」「音楽・ダンス」「物語」「鉄道」「生き物」の 5 つの分野を設定した。各生徒は学びたい分野を選択し、グループごとにその分野の①調べ学習、②体験活動を行い、その後全グループ合同の③発表会を実施することとした。①から③は 5 クールを行い（世界旅行で五大大陸を旅する設定）、その都度グループの選択機会を設けた。5 クール実施後は、自分の学びの経歴を振り返ったパスポートや分野別のゲームを作成し、縦割りグループで全ての分野を巡るオリエンテーリングを行った。

4. 評価方法

1) 生徒の変化

事前事後に生徒にアンケートをとり、興味・関心の変化の分析を行った。さらに、クールごとの生徒の選択の変化や授業中の様子をエピソード記録として積み重ね、評価を行った。

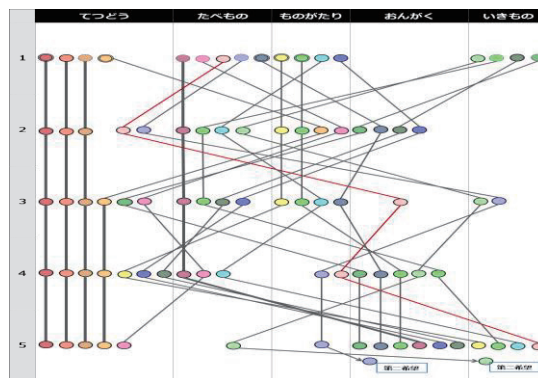
2) 保護者による妥当性の評価

12 月に保護者に対してアンケート調査を行い、授業の成果や妥当性の評価を行った。

【結果・考察】

1. 生徒の変化

〈選択の変化〉生徒の選択は、同じグループを繰り返し選択し一つのテーマについて深めた生徒（鉄道グループの 3



図「生徒のグループ選択の変化」

人)、興味のある活動を主に選択しながらも他の気になるグループを数回選択する生徒、様々なグループを体験し経験を拓げていく生徒など、スタート時の個々の興味関心に始まり、同じ興味関心をもつ仲間とのグループ活動を通じての深まりや広がりが見られた（図参照）。

〈エピソード〉生徒 A は、「食べ物」→「音楽・ダンス」→「物語」→「音楽・ダンス」→「音楽・ダンス」と選択が変化した。もともと「音楽・ダンス」への関心が高かったが、第 3 クールの「物語」の選択は第 2 クールの「物語」グループの発表を聞く中で関心が広がった。第 3 クールの「物語」グループが「楽しかった」と述べたが、第 4・5 クールでは「音楽・ダンス」を再選択し、第 5 クールの選択では選択理由を自分のことばで明確に述べることができた。

〈事前事後アンケートの変化〉生徒 16 人のうち 14 人は事後のアンケートにおいて記述内容数が増え、うち 10 人については大幅に増えた（倍増以上）。記述内容については、内容の増加や広がりだけではなく、記入順位の入れ替わりや、ジャンルの記述からより具体的な内容の記述（動物→アフリカゾウ）、今回の単元で実際に体験し学んだ内容（具体的な国名、具体的なダンス名、等）の記述が見られた。

2. 保護者の評価

保護者アンケート（回収率 82%）では、(1)本単元を実施したことで変化が見られた…71%、(2)学んだことを家庭で話した…93%、(3)教材ファイルや連絡帳で授業の様子が伝わった…93%で肯定的な評価が得られた。(1)について「興味関心で選択し友達との共通点を発見したことで、自分から話しかけたり聞こうとしたりする気持ちが強くなった」、「興味が薄かった生き物についても「動物園に行きたい」という発言が聞かれた」、「興味の広げ方、調べ方などがわかり、自分が何に興味を持ち、何を知りたいのか、何を調べたいのかが明確になった」等のコメントが寄せられた。

【まとめ】

本実践を通して、知的障害特別支援学校中学部段階の「願い」を拓げ育てる授業づくりにおいて、生徒の興味関心に基づいた学習内容の選定や自己選択や自己決定、仲間との協同学習の設定が有効であることが確かめられた。

(KUDO Takeshi, TAKATSU Azusa, FUKATSU Tatsuya, SATO Yoshitake, ADACHI Keiko, USAMI Taro,)